

# 「耳鼻咽喉科」のご案内

## 〈所属医師〉

部長：竹内 彩子

医長：濱田 浩司

医長：小山 貴久

非常勤医師：赤木 成子、藤 さやか、石原 久司

## 〈当科の特色〉

耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科疾患全般、すなわち、みみ・はな・のど領域に急性および慢性感染症、良性および悪性腫瘍、気道狭窄や鼻出血などの緊急疾患に対して診療を行っています。新生児から高齢者まで幅広い患者層を対称に、内科的治療から外科的治療（扁桃腺摘出手術、内視鏡下鼻内鼻腔手術や鼓室形成術など）を行っています。また、睡眠時無呼吸の精査やその後の手術加療、CPAP導入も積極的に行っています。

最近では、頭頸部癌にも分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤や適応拡大されるなど、専門的な知識や技能を必要とする場面が多くあります。最良のがん診療を行うためには、チーム医療が不可欠であり、内科、放射線科、歯科、リハビリテーション科など各関連診療科やメディカルスタッフなど、多職種の特任家が情報を共有し、密に連携をとることで質の高い診療を提供できるよう日々心がけております。

## ～CPAPが続かない、そんな時には～

ご存知のとおり、睡眠時無呼吸による心疾患や糖尿病、脳卒中発症のリスクは2～4倍と言われており、また交通事故の発生リスクは5倍と言われています。生活習慣病の予防や交通安全のためにも、日中の傾眠などの症状がある場合は当科では積極的にCPAP導入をお勧めしています。また、他科や他院で導入したものの継続使用が難しいため閉塞性病変の有無や圧の調整についてご相談いただくこともあります。

当科では鼻中隔彎曲症や口蓋扁桃肥大などの閉塞性疾患に対する手術加療や、入院のうえ、PSG（終夜睡眠ポリグラフィ検査）下でタイトレーションを行い、継続してCPAPを使用できるように圧調整を行っています。入院中のデータを検討し、外来で数回経過を見て安定していればご紹介先に戻っていただくようになります。あくまでCPAPは対症療法のため、治療を継続させることが重要です。ご多忙中、体重管理や生活習慣病のコントロールだけでなく、睡眠時無呼吸の管理も行われている地域の先生方のお役に立てれば幸いです。



耳鼻咽喉科、外来スタッフ

